

オディリア通信

あいあい

秋号(No.79)

R2年11月10日

社会福祉法人 聖オディリアホーム乳児院
〒165-0031 東京都中野区上鷲宮 5-28-28
TEL (03)5971-8071 FAX (03)5971-8073

Eメール odilia@guitar.ocn.ne.jp

ホームページ <http://odilia.jp>

基本理念 「愛をもって、愛を育てる」

昼夜の寒暖差が徐々に大きくなり、服装の調整が難しい季節になりました。天気や気温の変化を見ながら、子どもたちが元氣いっぱい過ごせるよう配慮していきたいと考えています。

散歩にでると、子どもたちは様々な物に興味を示します。落ちていた葉っぱを拾って持ちながら歩いたり、「あれなんだろっ」「わんわん、かわいいね」など、話しもはずみます。電車にはなかなか乗れませんが、見るだけでも声をあげて大喜びです。

公園遊びでは、落ち葉を踏んで音を楽しんだり、滑り台を何度も滑ったりします。コロナの感染リスクを考え、石けんを持参し、遊具を使ったあとは手洗いを十分にしているように日々努力しています。

例年とは違う、インフルエンザと新型コロナウイルスに気をつけながらの生活です。院内の換気をおこない、職員も、一人ひとりが引き続き健康管理に努め、手洗いの徹底とマスクをしながら保育をしています。面会も、保護者の方に協力していただき、終了時間を少し早めて、面会室の掃除や消毒を丁寧に行っています。子どもたちが健やかに成長し、毎日を楽しく過ごせるように日々努力しています。

(施設長 鎌倉 道子)

	月	月	月
身長	cm	cm	cm
体重	g	g	g



院庭ピクニック

雨の多い毎日でしたが、ピクニックの日はお天気に恵まれました。

「今日はお外でお弁当を食べるよ」と子どもたちに声をかけると、みんなとても嬉しそうにしています。コロナウイルス対策で今年の遠足は控えていたため、久しぶりのおでかけです。リュックに自分のコップやスプーン、フォークを入れて背負えば、気分もワクワク、いつもの院庭も特別な場所になります。

子どもたちも自分からシートを敷いたり、保育者の準備を手伝ったりと楽しそうにしています。戸外でみんなと食べるお弁当は格別です。秋晴れの空の下、さわやかな風に吹かれながら、穏やかなランチタイムとなりました。

(保育士 川村)

ハロウィン

今年も楽しみにしていたハロウィンの日がやってきました。10月に入ると、各部屋でハロウィンの日に回けて装飾をしたり、製作遊びを楽しんで過ごしています。

当日は、担当者が選んだとおきの衣

装に着替えます。各部屋では、お菓子を準備し子どもたちを待ちます。

「コロナウイルスの影響も踏まえ、部屋ごとに順番を決めて各ステーションを回り、安全な体制でお菓子をもらいに行きました。毎年、子どもたちが楽しみにしているイベントのため、今年も実施することができ安心しました。

各部屋の装飾や大人の仮装に喜んだり、驚いたりと反応は様々でしたが、お菓子をもらうとうれしそうにカバンにしまっています。部屋に戻ると、いつもは着席ままでに時間がかかる児もすぐに席に向かい、みんな楽しいおやつ時間を過ごしました。

(保育士 伊東)



秋の遊び

暑かった夏が終わり、秋らしい気候になってきました。晴れた日は、院庭に出たり、玄関の花壇や植木の観察を行い、戸外活動を楽しんで過ごしています。

院庭の側にある花壇には、きれいな花々のほか、面白い植物が育っています。そっと触れると、隠れるように葉っぱが閉じる植物「オシギソウ」です。不思議な植物に子どもたちも興味津々です。とげになっている部分があるため、注意しながら観察を楽しんでみてください。



秋の遊びといえば、どんぐり拾いも子どもたちの楽しみみのひとつです。高月齡児が散歩で拾ったどんぐりを居室で観察して楽しみました。様々な形のどんぐりを見て、「大きいね」「かわいいね」と話していました。

絵本を読む場面では、「こね」とどんぐりの絵本を指差し、戸外でも屋内でもそれぞれが季節を楽しんでいる姿がみられました。

(保育士 伊東)

作業療法士より

生まれたばかりの赤ちゃんについて、まだほとんども寝ていて、起きまわらなくて、オムツを替えてもらって授乳されることと寝るか泣くだけだと思われていることが多いのではないのでしょうか。

生まれる前の胎児は羊水に守られています。生まれてからは、赤ちゃんは身ひとつで初めて地球の重力を体験することになります。そのような状況のなか、身体の置きどころが分からず不安で泣いているのです。

そこで、きれいな温かい布に包まれて抱っこされた授乳をわけて心地よさを覚えることで安心して眠れるようになります。そして、繰り返される毎日の生活のなかで『感覚』の基礎がしっかりとつきます。



- ・ 見る
- ・ 聴く
- ・ 嗅ぐ
- ・ 味わう
- ・ 触る

以上の五つを五感（ごかん）といいます。そのほかに、人には揺れや回転を感じることで、触られて分かること、身体を水平に保つことなど、感覚もあり、これらは自分の身を自分で守って生きていくために必要となります。

赤ちゃんは、まず授乳の抱っこの距離から人の顔を認識するようになります。やさしく話しかけられる声や心音を聴いて、授乳する人の匂いを嗅ぎながら母乳やミルクを味わっています。そして心地よい抱っこのときの揺れや自分が伸ばした手で触れた感触を覚えていくのです。

耳は生まれる前から聴いていますが、目は生まれてから使います。そのため、赤ちゃんは最初ぼやけた世界しか見えませんが、抱っこする人の口元や目がしっかりと見えてシッと見続けられるようになっていくと、周囲の様子も目で追って見るようになっていきます。



周囲をよく見て、色々な音を聴きながら自分にとって必要な情報を吸収していくようになります。身体もどんどん使うようになります。そして、たくさんのはしゃぎを覚えて話せるようになるまで貯めていきます。

この抱っこの時期の直接的な関わりで、心地よい経験を積み重ねていくことができた子どもたちは、その後の集団生活が始まっても、友だちと適切な距離感を保ちながら、生活していくきっかけをつかみやすくなり、学習も進んでいきます。

生まれたらすぐに始まる授乳は、一日に昼夜を問わず回も繰り返されるため機械的になりがちですが、赤ちゃんにとって大切な「コミュニケーション」の時間です。その一回一回が将来につながることを考え、赤ちゃんの顔がしっかりと見えるように抱っこして、たくさん話しかけていきましょう。

ナースの一言アドバイス

子どものスキンケア

秋になると日中の日差しが柔らかくなり、朝晩の気温が低下してきます。またそれに伴って空気が乾燥してきます。

子どもの皮膚は大人に比べて薄く、2分の1から3分の1程度の厚さとなっています。そのため、乾燥しやすく刺激や摩擦に対する抵抗力も弱いいため、とても傷つきやすい状態なのです。

乾燥の時期には清潔と保湿のケアが大切です。

基本は清潔

- ・顔に鼻水や食べ物などが付いた時はやさしくきれいに拭き取りましょう。
- ・お風呂の温度はぬるめにして、ゆっくゆっく入浴しましょう。

『清潔に』というのと、『ソフトに』と洗いたくなりますが、石鹸を泡立てて手で優しく洗いましょう。



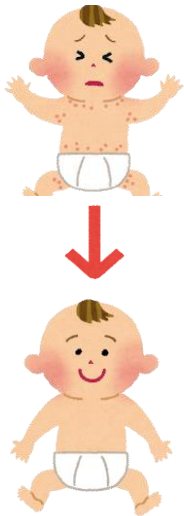
保湿剤はたっぷり

保湿剤を塗るにはタイミングが大事です。角質層が水分で潤っている時に保湿剤を塗り、水分を閉じ込めてしまうのが上手な使い方です。お風呂あがりの場合は、汗が引いた後10分以内のまだ肌が温り気をおひている内に塗りましょう。



刺激を少なく

アクリルなどの合成繊維でできた衣類は、体から発散した水分を蓄える力が少ないため、皮膚を乾燥させます。また、静電気が起きやすく、それによって皮膚が刺激されてかゆみを生じます。肌に接する衣類は、水分を蓄える作用のある木綿などがおすすめです。



毎日スキンケアをしても肌トラブルが改善されないときには、皮膚科を受診しましょう。

(看護師 林愛子)

今後の行事

クリスマス

お正月

お知らせ

聖オディリアホーム乳児院のホームページがあります。合わせてご覧下さい。

<http://odilia.jp>

☆編集 後記☆

長雨の秋でしたが、少ない晴れ間にはお散歩をしたり、院庭で遊んだり体を動かし遊びました。今は電車やバスでの移動を控えており遠出はできませんが、楽しく戶外遊びができますよう日々工夫して過ごしています。

(保育士 川村)